

恵みには、  
かかせないもの。



# ロブラール<sup>®</sup> くん煙剤

汚れが少ない、簡単処理法。  
環境にもやさしい殺菌剤の決定版。



## ロブルールくん煙剤の特長

- 1 特に、灰色かび病・菌核病・つる枯病に優れた予防効果を示します。
- 2 マッチやライターで点火紙に点火するだけで処理でき、大変省力的です。
- 3 ハウス内の湿度を高めないので、発病を助長せず、曇天の続く時期にも使用できます。
- 4 果菜類では、収穫前日まで使用でき、しかも収穫物の汚れもほとんどありません。

### 適用病害および使用方法 (2008年9月現在の登録内容)

作物名	適用病害名	希釈倍数・使用量	使用時期*	使用回数*		適用場所	使用方法	
				本剤	イプロジオンを含む農薬の総使用回数			
きゅうり	菌核病、灰色かび病	くん煙室容積 300~400立方メートル (高さ2m、床面積150~200平方メートル) あたり100g (50g×2個)	前日	4回	5回 (種子粉衣1回、は種後4回)	温室、 ビニールハウス等 密閉できる場所	くん煙	
すいか	菌核病			3回	4回 (種子粉衣1回、は種後3回)			
メロン	菌核病、つる枯病			4回	5回 (種子粉衣1回、は種後4回)			
トマト	菌核病、灰色かび病			2回	3回(種子粉衣1回、は種後2回)			
ミニトマト				4回	5回(種子粉衣1回、は種後4回)			
ピーマン				4回	5回(種子粉衣1回、は種後4回)			
なす	菌核病、灰色かび病		7日	3回	3回			開花直前~幼果期
とうからし類				3回	3回			
いちご	灰色かび病		7日	3回	3回			開花直前~幼果期
みかん				3回	3回			
ぶどう		3回		3回				

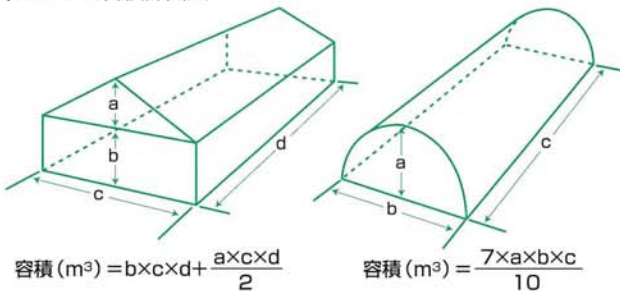
\*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数と、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

### くん煙剤の上手な使い方

#### ◆くん煙量の決め方

くん煙剤の薬量はハウスの容積で決めます。薬量の過不足は作物に薬害がたり、効果不足になりますので、ハウスの容積は正しく測り、適正な薬量を使用してください。

#### (1)ハウスの容積算出法

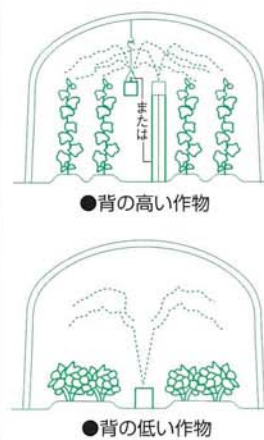


#### (2)くん煙量の算出法

$$\text{使用薬量(個数)} = \frac{\text{くん煙するハウスの容積(m}^3\text{)}}{\text{使用するくん煙剤1個でくん煙できる容積(m}^3\text{)}}$$

#### ◆くん煙剤の配置(立面図)

背の高い作物はつり下げて、背の低い作物に関しては地面に置いて使用してください。



#### ◆つり具の組み立て方

- 1 アームを垂直に引き上げる。
- 2~5 を折り曲げる。



\*つり具は上面と下面がありますので、確認のうえ組み立ててください。

#### 【点火方法】



### 注意事項

- 温室、ガラス室、ビニールハウス等、防除しようとする室の戸や窓を閉め、室の容積によって使用量を決め、分散して薬剤を配置(1カ所100g以下)し、煙が満ちるまで行きわたるようにしてください。
- 使用量に合わせ秤量し、使いきってください。
- くん煙する際は、添付のつり具または所定の電気式点火くん煙装置を使用してください。つり具および電気式点火くん煙装置はつり下げか、または不燃性の台などの上にのせて使用してください。なお、植物体、可燃物から離れた中央の安全な場所に設置してください。特にビニール等の被覆材とは60cm以上離れた位置で使用してください。
- 点火は以下のとおり行ってください。
  - ①点火紙を用いる場合  
同封の点火紙をつり具または所定の位置に正しく設置し、その上に薬剤をのせてから点火紙に点火してください。点火紙を薬剤の上にのせて点火すると炎が出るのでご注意ください。発煙直後に万が一炎が出た場合は吹き消してください。点火後、発煙を確認したらくん煙室の外に出てそのまま放置してください。
  - ②電気式点火くん煙装置を使用する場合  
装置は水などに濡れないように設置し、電源がオフになっていることを確認の上、薬剤を装置の所定の位置に正しく設置した後に通電してください。点火後発煙したら電源のオフを確認し、くん煙室の外に出てそのまま放置してください。発煙直後に万が一炎が出た場合においても、再びくん煙室に入らずに、そのまま放置してください。
  - ③点火後はくん煙終了時までくん煙室に入らないでください。
- 日中のくん煙はさけ、夕刻からくん煙し、翌朝開放してください。
- 高温時(30℃以上)のくん煙は薬害を生じやすく、また風の強い日は煙が片寄ってしまい、均一な効果が出にくいので、使用しないでください。
- 定植直後、幼苗、軟弱徒長苗、草勢または樹勢が弱っている場合には、薬害を生ずる恐れがあるので使用はさけてください。
- 作物がハウスの天井に触れるぐらいに大きくなっている場合、上方にたまった濃煙が触れる部分に薬害を生ずる恐れがあるので使用をさけてください。
- ぶどうに使用する場合、葉焼け等の薬害を生じやすいので次の事項に注意してください。
  - ①発煙は1カ所50g以下で行なってください。
  - ②天井と樹との間隔が30cm以下の場合、暖房機などの送風機を稼働させ、煙の拡散を図ってください。
  - ③テラウエア、巨峰、ピオーネ以外の品種では薬害を生じやすいので必ずつり具を用いてくん煙してください。
  - ④超早期加温栽培の場合や、樹が軟弱に生育した場合には、特に薬害を生じやすいので使用はさけてください。
- 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤の過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤と組み合わせで輪番で使用してください。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分に確認してから使用してください。なお、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。●ラベル記載以外には使用しないで下さい。●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

(F-2029 08.09.JWT)

バイエルクロップサイエンス株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262 www.bayercropscience.co.jp

お客様相談室: ☎ 0120-575-078 (9:00~12:00, 13:00~17:00) 土・日・祝祭日をのぞく